



第80期事業報告及び計算書類報告の件

2025年6月25日

代表取締役社長
西田憲司

1. 第80期決算トピックス

【売上高は10.2%の増収】 … 売上高6,785百万円

- ・ 製品・商品が大幅増収(前期比+9.4%)、切削屑も大幅増収(前期比+14.7%)。
- ・ 黄銅弁は10.9%の増収：[増収] LPガス容器用弁、設備用、バルク附属機器
- ・ 鉄鋼弁は6.0%の増収：[増収] 設備用、船舶用 [減収] 車載用、バルク附属機器、低温弁

【営業利益は61.1%の減益】 … 営業利益82百万円

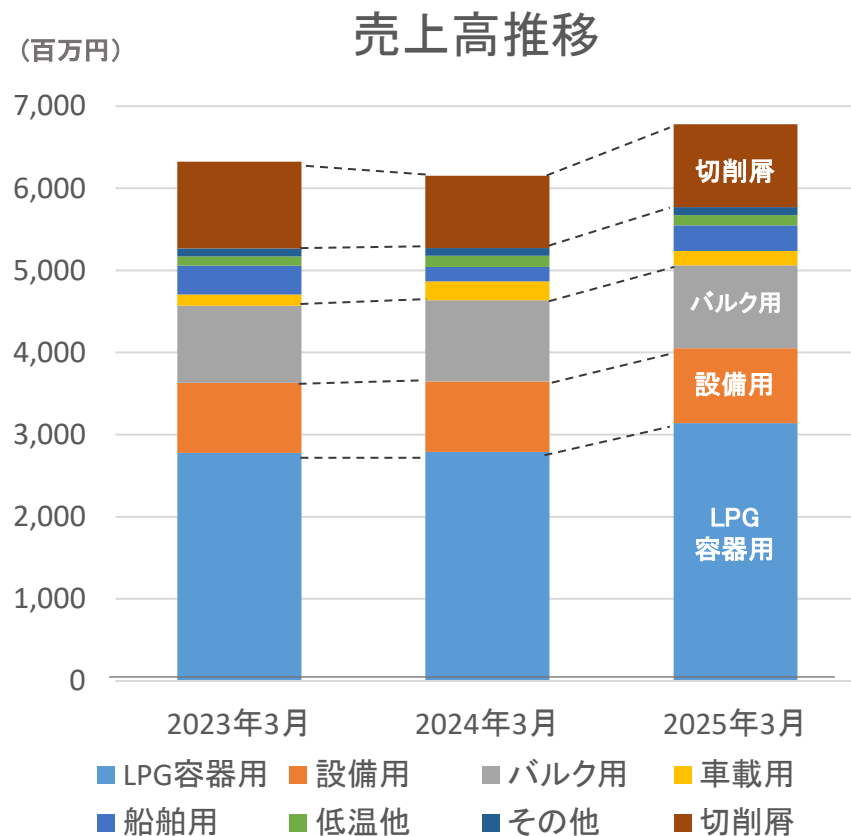
- ・ 概況：
 - － 黄銅材価格が期初に急騰したのち、9月には落ち着きを見せましたが、期中平均で1kg1,100円以上という歴史的な高値水準となったため、主力製品であるLPガス容器用弁が10%以上の増収であったにもかかわらず、収益が大幅に落ち込みました。
 - － また、6月には公正取引委員会より独占禁止法違反(不当な取引制限)に係る148百万円の課徴金納付命令を受け、これを納付しましたので、特別損失を計上し、74百万円の当期純損失となりました。
- ・ 今後の見通し：
 - － 売上高は、LPG容器用弁と車載用が増加する見込みですが、全体としてはほぼ横ばいとなる見込みです。
 - － 黄銅材価格は現在のところ落ち着いていますが、国際政治が不安定なため、方向感のない相場が継続すると思われます。諸物価も上昇傾向が続いていますので収益的に厳しい状況が続きますが、一層の生産性向上、および経費削減に努めて収益確保を目指します。

【期末配当】

- ・ 第80期の期末配当(1株につき2円)を本総会の第1号議案として上程させていただきます。

2. 売上高

単位：百万円		2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	25-24年 増減
黄銅弁	LPG容器用弁	2,779	2,791	3,141	349
	設備用	320	290	323	33
	バルク付属機器	628	642	665	23
	その他	0	0	0	0
	小計	3,728	3,724	4,131	406
鉄鋼弁	設備用	531	565	587	21
	車載用	140	231	176	▲55
	船舶用	350	175	310	134
	バルク付属機器	311	349	347	▲2
	その他	113	135	125	▲10
	小計	1,448	1,458	1,546	87
	その他	96	94	97	3
	切削屑	1,057	880	1,010	129
	合計	6,331	6,157	6,785	627



【第81期売上見込み】=全体として横ばいの見込みです=

- ・LPG容器用弁： 増加 (数量増)
- ・設備用： 横ばい (工事案件数横ばい)
- ・バルク付属機器： 減少 (交換需要ピークアウト)
- ・車載用： 横ばい (生産台数横ばい)
- ・船舶用： 増加 (建造案件数増加)
- ・その他(鉄鋼弁)： 横ばい (低温弁横ばい)

3. 収益状況

単位：百万円	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	25-24年 増減
売上高	6,331	6,157	6,785	628
(うち切削屑)	(1,057)	(880)	(1,010)	(130)
売上原価	5,144	4,968	5,740	772
売上総利益	1,187	1,189	1,045	▲144
販管費	922	978	963	▲15
営業利益	265	211	82	▲129
営業外損益 NET	▲7	▲2	▲8	▲6
経常利益	258	209	74	▲135
特別損益 NET	1	0	▲122	▲122
税引前利益	259	209	▲48	▲257
法人税等	26	32	27	▲5
当期純利益	233	177	▲75	▲252

【売上高総利益率】

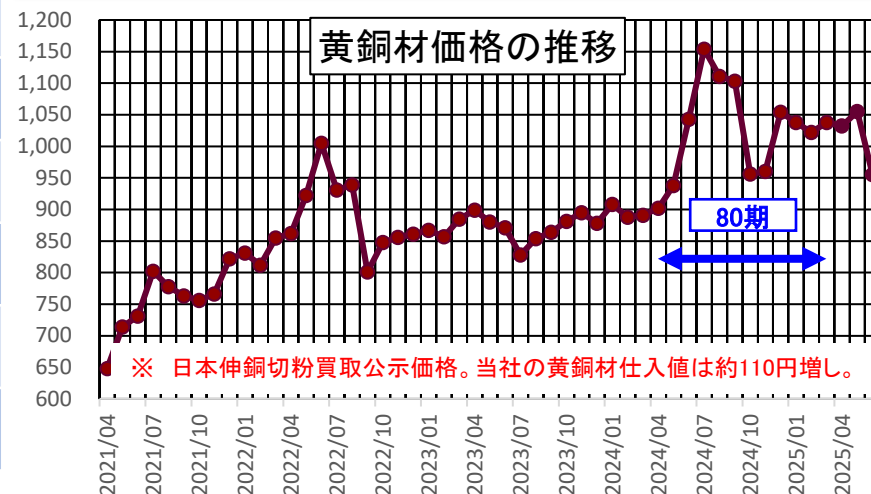
2023年3月	18.7%
2024年3月	19.3%
2025年3月	15.4%

【売上高営業利益率】

2023年3月	4.2%
2024年3月	3.4%
2025年3月	1.2%

【2025年3月期】

- ・ 黄銅材価格が期初に急騰後、9月には落ち着きましたが、期中平均では歴史的な高値が続き、さらには労務費や運賃その他経費が大幅に上昇したため収益を圧迫しました。
- ・ これに対し、全社的な生産性向上と経費削減によって営業黒字を維持しましたが、6月に公正取引委員会より148百万円の課徴金納付命令を受けこれを納付しましたので、当期純損失を計上しました。



4. 財務状況

単位：百万円	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	25-24年 増減
流動資産	3,406	3,522	3,523	1
うち現預金	377	481	436	▲45
うち受手・売掛金	1,249	1,280	1,370	90
うち商品・製品	1,143	1,135	1,058	▲77
うち原材料	615	602	625	23
固定資産	4,734	5,123	5,375	252
資産合計	8,140	8,645	8,898	253
流動負債	2,270	2,717	2,803	86
うち支手・買掛金	626	679	665	▲14
うち借入金	1,101	1,339	1,555	216
うち未払金	127	224	174	▲50
固定負債	1,789	1,750	2,119	369
うち借入金	473	331	703	372
純資産	4,081	4,178	3,976	▲202
うち利益剰余金	420	501	330	▲171
負債純資産合計	8,140	8,645	8,898	253

【トピックス】

① 商品・製品在庫

商品・製品の在庫回転期間は1.9ヵ月で前期より若干短縮され(前期2.2ヵ月)、適切な在庫水準を維持しています。

② 固定資産

主要な設備投資は次の通りです。

・ワイン醸造所	171百万円
・排水処理設備	161
・工作機、検査機	92
合計	424

③ 借入金

増加運転資金と固定資産取得資金として、588百万円の借入増となりました。

【財務指標】

いずれも健全性を維持しています。

① 流動比率(流動資産/流動負債)

2023年3月	150. 0%
2024年3月	129. 6%
2025年3月	125. 7%

② 自己資本比率(純資産/総資産)

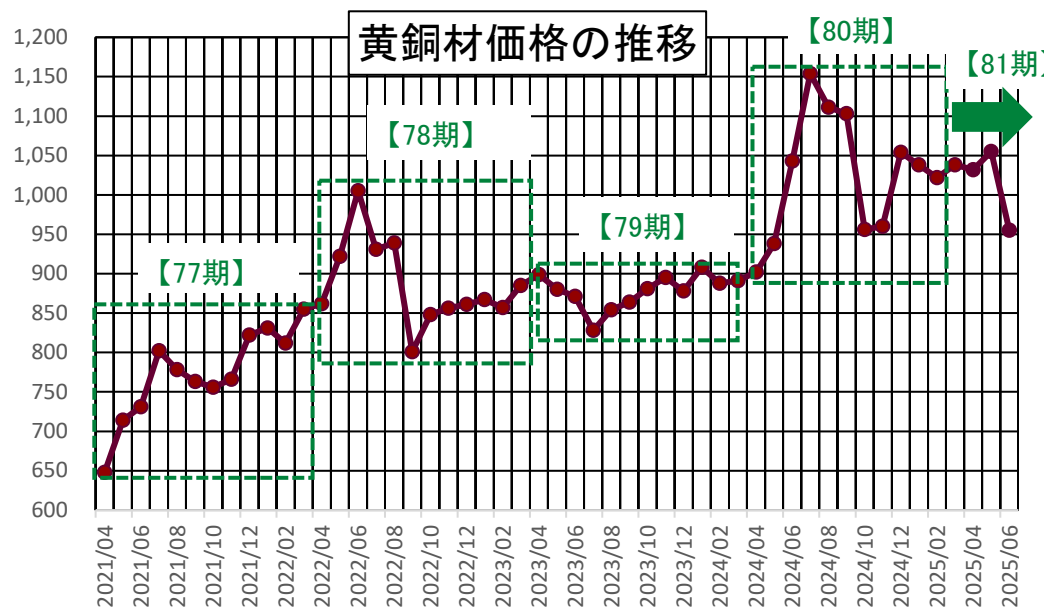
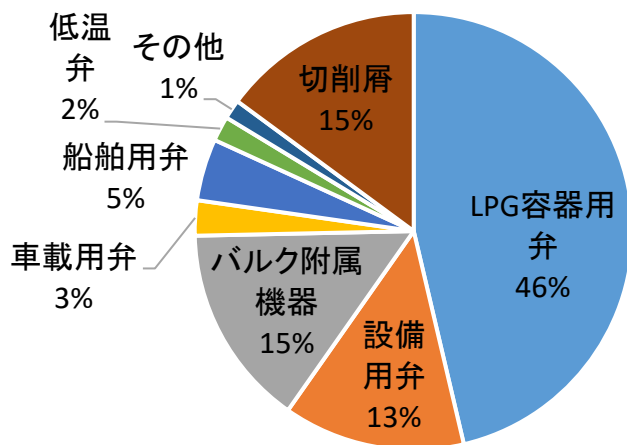
2023年3月	50. 1%
2024年3月	48. 3%
2025年3月	44. 7%

5. 81期(2026年3月期)業績見通し

(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想
売上高	6,785	6,800
営業利益	81	160
経常利益	73	160
当期純利益	▲74	125
配当予想	期末 2円	期末 2円

- 黄銅材の価格が80期に入ると3か月で約28%の暴騰を見せ、その後に騰勢は落ち着きましたが、通期では79期と比べ平均で約20%の高値となりました。81期のスタート時点では価格に落ち着きが見られますが、国際政治の不安定さを背景に、方向感のない相場が続くと思われます。
- その他諸経費も値上がりしていますので、引き続き生産性向上と経費削減に努めたうえで、必要に応じ適切に製品値上げを行っていく予定です。
- 新製品や新事業の開発努力を継続していますが、現在のところ、事業ポートフォリオに大きな変化はありません。81期は、売上高は横ばい、製品値上げも含めて収益は改善すると考えております。

現在の事業ポートフォリオ



6. 事業展開

※重点項目※

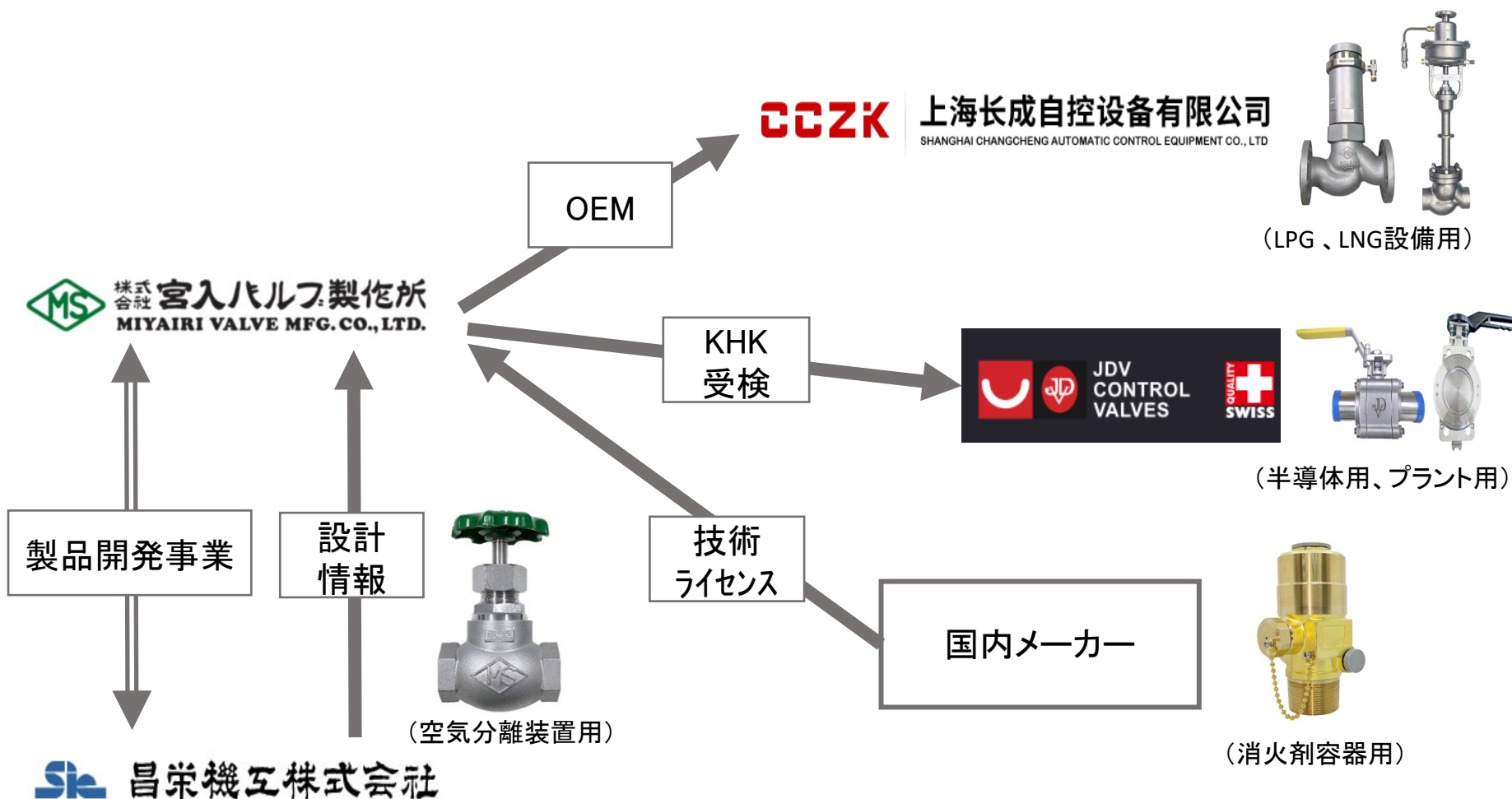


株式会社 宮入バルブ製作所
MIYAIRI VALVE MFG. CO., LTD.

	コア事業	拡大事業	新事業	提携事業
分野	LPG	LNG・水素	食品加工用機器 アグリ事業	産業ガス分野
80期 取り組み	- 中国でのOEM生産に 一歩を進めた ー上海長成社による 試作品評価良好 - 中国バルク事業協業 について、浙江金象 社と関係を構築した	- 液体水素、LNG、液 体窒素、アンモニア 用バルブ(低温弁)の 販売を強化している - 空気分離装置用バル ブ(計装弁)が完成し、 初注文を受けた	- 醸造所が完成し、初仕 込みを行い、製品の 初出荷にこぎつけた - 醸造関連機器の開発 を完了した ー搾汁機、充填機、 バレルクリーナー - 食品加工機向け逆止 弁付きノズルを製品化 した ー液体窒素用	- 台湾JDV社の半導体用 バルブのKHK検査受検 業務を受託(継続)した - Cavagna社の産業ガス容 器用バルブのKHK検査 受検業務は円安のため ペンディングとなった - 消火剤用容器バルブの 技術ライセンスを国内 メーカーから取得した
81期 実行計画	- 上海長成社の日本基 準での品質保証体制 を構築していく - 中国でのOEMをテコ に、アフリカ等への進 出を検討する	- 製品開発を事業化し、 昌栄機工様と協業す る仕組みを構築する - 空気分離装置用バル ブの生産品目を拡大 する	- サニタリーバルブの 品揃えを強化し、かつ 原価低減を推進する - ECサイトを立ち上げ、 アグリ事業を軌道に乗 せる	国内外のメーカーと協業 しながら、産業ガス容 器用バルブの開発を行い、 製品化の目途をつける

7. 協業による事業拡大

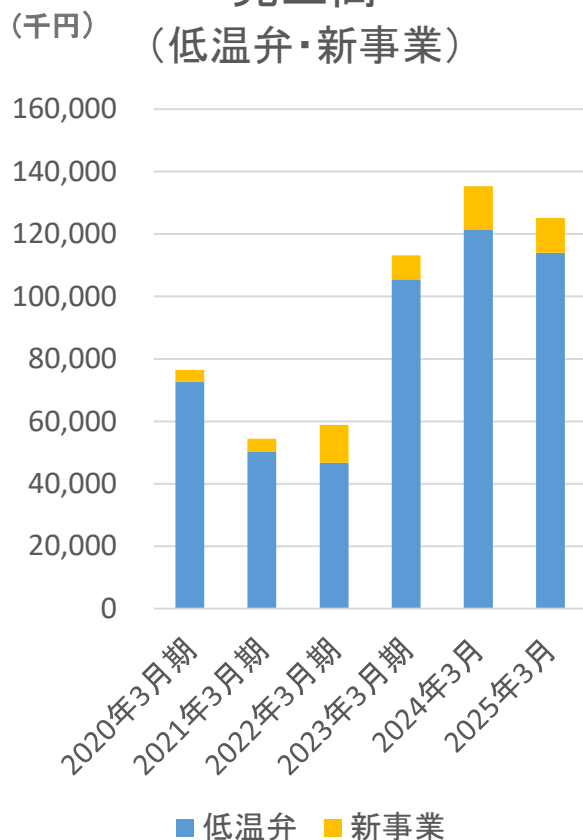
- 国内外のメーカーや商社と協業しながら、製品分野や事業領域の拡大を図っております。



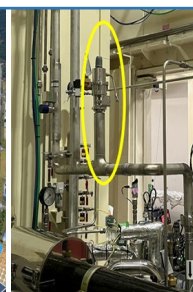
8. 低温弁・新事業(サニタリー等)

80期売上例

売上高
(低温弁・新事業)



エーテック株式会社様経由
(C)宇宙航空研究開発機構(JAXA)様
燃料タンク用極低温バルブ



株式会社鈴木商館様経由
国立研究開発法人理化学研究所様 SPring-8
液体窒素用極低温バルブ



大陽日酸株式会社様
食品加工機械用液体窒素注入ノズル

【サニタリーバルブ】

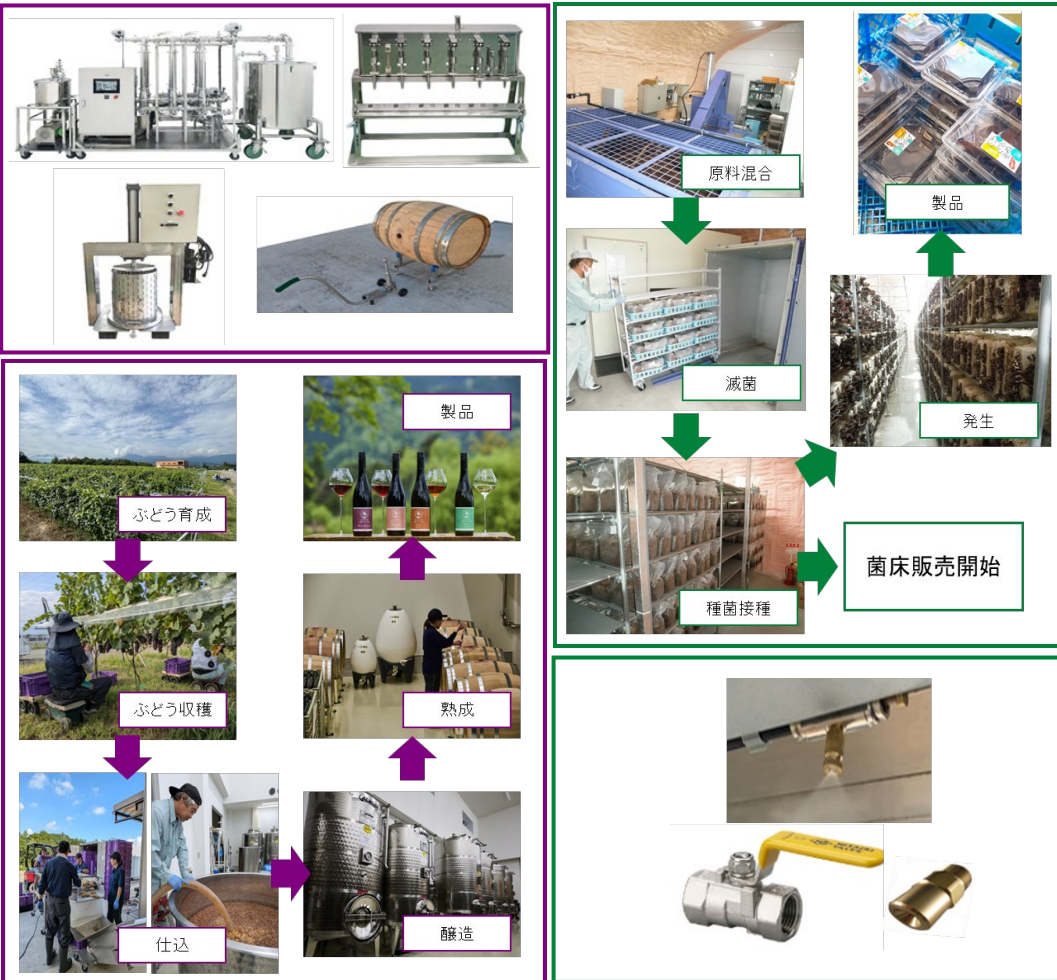


【ミストノズル】



9. アグリ事業の六次産業化

- ぶどう栽培からワイン醸造に成功し、きくらげは菌床販売を開始しました。
さらに、オンラインショップを立ち上げましたので、農業の六次産業化の出発点に立ちました。



MS Online Shop は、
株式会社宮入バルブ製作所が運営する
公式ECサイトです。

御勅使川ワイナリー
MIDAIGAWA WINERY

宮入バルブ製作所が運営するワイン醸造所です。ブドウを収穫から仕掛けており、醸造・熟成・貯蔵・出荷、ワンストップで提供いたします。酒造りの技術と品質へのこだわりが感じられます。

南アルプス
Farm&Labo

菌床づくりから収穫・出荷まで、10年以上の経験と技術が詰まった菌床は、宮入バルブ製作所の技術が活かされています。菌床をきくらげ、椎茸、舞茸などに育てることができます。

※ ワイン商品一覧へ

※ きくらげ商品一覧へ

10. 事業戦略

- ・ あくまでも、LPガス供給機器の製造で培った要素技術を活かした事業展開を図っています。

